



「大事なもの」と「大事にしたいもの」  
はチョツとちがう

日々の生活の中には、さまざまなやりたいこと、やらなくてはいけないことが、山のようにある。1日24時間という、限られた時間の中では、すべてを行なうことはできない。そこで自分なりの優先順位をつけて、大事だと思うことから行なっているのだが…。

以前「7つの習慣」という本を読んでいたから、普段自分が選んでいる「大事なもの」の多くは「緊急を要するもの」で、本当に大事なものではないと書いてあり、驚いた。これからは、自分の人生にとって本当に大事なものを選んで行こうと思い、考えてみた。ところがいろいろと考え出すと、どれも「大事なもの」のように思えるし、また本当は、そうでもないようにも思える。

どうも人生で本当に「大事なもの」は、棺桶のふたを閉めるまでは分からないのかもしれない。そこで、考え方を変えて、私の人生で「大事にしたいもの」は何かを考えてみた。

家庭を大事にしたい。仕事を大事にしたい。友人関係を大事にしたい。今まで培ってきた信用を大事にしたい。会社の役職や出世も大事にしたい。人に嫌われたくない。収入を増やしたい。傷つきたくない。今の生活レベルを下げたくない。健康を害したくない。

う〜む。掘り下げて行くと、私の大事にしたいものは、プライドや地位、名誉になってしまう。

プライド、地位、名誉にこだわることを、執着という。私は執着を大事にしているのだろうか。

袋小路に入りかけていた頃、主婦のKさんの話を聞いた。

「夫婦関係が冷めてきた頃、夫が大事なの

ではなく、夫の収入を大事に思っていることに気づき、別居して働きに出た。しかし、収入が安定してくると、やっぱりひとりだけで生きていくのはさみしいと思うようになった。夫ともう一度話し合ってみようと思う」というような話である。

最初は夫が大事だと思い、本当は収入が大事になり、収入が入るとまた、夫との関係が大事に思えてくる。

「大事にしたいもの」は状況によって変わるものらしい。

では、結局元に戻るのならば、考えるだけ無駄なのだろうか。

どうせ変わらないと、現状を肯定し何もしないのと、現状を否定して行動し、更にもう一度否定することは、結局元に戻ったとしても、前とまったく同じにはならない。少なくとも、同じ悩みに陥らなくてすむ。

自分を一つ知るということは、一つ悩みが減るということになる。悩みが解けない状態を苦しみと言うならば、人生の苦しみがひとつ減るわけだ。

人生に悩みが尽きることはないが、一つでも悩みを減らせれば、それに越したことはない。

今の自分は「執着」を大事にしているかもしれないが、それもやがて変わっていけば、いずれは「執着」から離れて行けるのではないだろうか。

少なくとも悩みや苦しみが減って行けば、変わっていくだけの価値はある。

考えることで自分を知り、知ることでまた自分を変えることができる。

そして自分の苦しみが少しでも減っていけば、一歩ずつ成長している実感も持てる。

「大事にしたいもの」が変わりつづけることが、結局人生の「大事なこと」と言えるのかもしれない。

執着だらけの天才哲人 上村慎二郎